



昭和41年10月6日設立 / 昭和41年11月21日承認
 例会日時 毎週木曜 12:30点鐘
 (最終例会 18:30点鐘)
 例会場 中国ダイニング富士屋

事務局
 〒289-1732 千葉県山武郡横芝光町横芝 1519-6
 TEL 0479-80-1177 FAX 80-1178
 第2790地区ガバナー 宇佐見透 第6分区分ガバナー補佐 諏訪武士

URL <http://www.narita-airport-m-rc.jp>
 e-mail info@narita-airport-m-rc.jp

平成26年11月27日発行 NO.2113 第2241例会 会長 行木 英夫 幹事 小川 佐内 会報委員長 小杉 秀文

例会報告(平成26年11月27日)

夜間例会

(富士屋)

点 鐘 会 長 行木英夫
 ソ ン グ 「手に手つないで」
 唱 和 「四つのテスト」
 会長挨拶 会 長 行木英夫
 幹事報告
 プログラム
 お客様

第2790地区職業奉仕委員会委員長

土屋利夫様

各委員会報告

卓話(土屋利夫様)

談会について幾つかお話しさせていただきます。

一つは地区組織を変更するに至った経緯。これは2000年にRIより地区組織構成検討要請に基づき、DLPを参考に組織したもので有る事。これにより少数会員クラブの活生化と各クラブのCLPと繋がればとの考えからだということです。二つ目がクラブ研修リーダーの件。リーダーをクラブ会長エレクトが任命するという事は、会長のアドバイザー的役割であり、クラブと地区の意思疎通を図るのが一つの大きな役割という事。三つ目に、定款は3年ごとに見直されますという事。当クラブは2007年の定款ということが指摘されました。以上が主な事でした。さて、今月21日に衆議院解散、来月2日告示、14日投開票という事ですが、株価があがり、気持ち上向いてきた景気、腰折れに成らないよう願うだけです。そういう中、今日は2790地区職業奉仕委員会委員長の土屋利夫様にお越しいただいております。職業奉仕は難しい、語るも行うも難しいといわれる奉仕の理念、この難しい職業奉仕の卓話をお願いしてございます。土屋様、本日はよろしくご指導お願い致します。

本日の会務報告はございません。

会長挨拶



皆さん、今晚は、13日のガバナー訪問は遅くまで大変ご苦労様でした。皆様の協力のもと無事終える事が出来ました。今回のガバナー訪問時に行われた懇

幹事報告

①例会変更のお知らせ

- ・大網RC
12/24(水) 移動例会(忘年会)
点鐘18:30 はせ川

②会報受領クラブ

- ・コスモポリタンRC ・流山RC

③12月ロータリーレートは、1ドル=112円

- ④ハイライトよねやま 176 号(2014 年 11 月 12 日発行)が届いております。
- ⑤地区奉仕プロジェクトより News letter 第 3 号(11-12 月号)が届いております。
- ⑥白鳥政孝パストガバナーより会報のお礼状が届いております。

■ 卓話

「職業奉仕について」



第 2790 地区職業奉仕委員会
委員長 土屋 利夫 様

皆さん今晚は、昨年度はAGとして大変お世話になりました。特に親睦ゴルフ大会の開催につきましてのご支援に改めて感謝申し上げます。

さて本年度、職業奉仕委員会を担当させていただいており、本日卓話という貴重なお時間を誠にありがとうございます。

宇佐見ガバナーは、自身の意思をはっきり確定し、信頼を伴う仲間として、「自らの職業に基づく人としての信頼回復」そして、「和して同ぜず」と提唱され、ロータリーとは、自らの職業を通じた活動で、倫理運動に根差した地域社会への貢献が基本との考え方から、ガバナーは職業奉仕委員会を独立した委員会として位置付けている事はご承知の通りです。地区委員会は 10 月 18 日、千葉市内に於いてセミナーを開催、現在報告書の作成に着手しておりますので、しばらくお待ちいただきたいと思います。

1905 年、ポールハリスによって「一業一会員制」と「規則的例会出席」の原則を確立したロータリー。ポールハリスとその友人達により、相互扶助を目的とした結社が次第に有力な会員の加入により、職業倫理の高揚を目指した倫理集団へと成長し、一貫して目指したことは、理念の構築とこの理念をいかな

る方法を持って行動に移すかという、実践倫理の行動基準の開発にありました。ポールハリスは自伝の中で、ロータリアンは、職業奉仕の基本として、「他の人にもう少し優しくなり、力になってあげるために、日常の仕事の中で何が出来るだろうか」。いわゆる職業奉仕は、日々、この基本を実践しなくてはならないもの。そして、毎日の仕事に意味を与え、職場に尊敬の念を与える。これを目指していると言っています。

2007 年、白鳥年度でございます 9 月 6 日に、地区職業奉仕セミナーが開催されています。テーマは「ロータリーの核にあるもの」、講師は、弁護士の深川純一様です。「ロータリーの核にあるものとは一体何か」それを語るには色々な視点から分析せねばならない。まず、第一の視点は、ロータリーは一つの思想である。従って、ロータリーの思想の核とは何か。第二の視点は、ロータリーは一つの組織である。従って、ロータリーの組織の核とは何か。これは定款細則論の視点から分析しなければならない。その核にあるものは「一業一会員制の原則」と「規則的例会出席の原則」。第三の視点は実践です。ロータリーは実践しなければならないというのです。実践の核とは、これはロータリーの実践原理である「決議 23-34」の視点から分析すべきと提案をされています。

そして、ロータリアンは皆職業人であることから「職業倫理の核は何か」、そしてその職業倫理の実践としての職業奉仕とは何かという視点でのお話、お聞きになられた方も多いのではと思います。

職業奉仕を理解するために心に留めておくべき事は、ロータリー運動は、実は倫理運動であり、ロータリークラブは、寄付団体でも慈善団体でも、また、ボランティア団体でもないと言う事です。ロータリークラブは、社交クラブとしてロータリアンに奉仕の心を育て、世の中に倫理を提唱していくべき使命をもった団体であり、ロータリーの本願は、タバコの吸い殻を捨てない人を育てるところにあるというのです。人を育て、道徳を守る人間を作る事。そのことによって、世の為人の為に動く。これこそがロータリーの倫理運動を意味する事とお話されました。そして、これを見失うとロータリーの職業奉仕分かりづらくなる。この辺に一つ「職業奉仕はむずかしくて、わかりづらい」と、多くのロータリアンからの想いなのかも知れません。

ロータリアンは、皆職業人です。従って、先ず自分の職業を愛すべきです。自分の職業を愛すればこそ、

やがてそれが他者への思いやりとなり、他者への愛の心が芽生えるのであります。その事によって初めて、職業人としてお互いに為(な)すべき事、為(な)すべからず事を誓い合う、いわゆる「職業倫理」の自覚・提唱に繋がっていくと語っています。

一期一会という言葉があります。人と人との出会いを大切に、末永いお付き合いを目指し、生涯顧客を何人持つかで、その人の人生は決まる。いかがでしょうか。企業で働く人は、自分の生活を支えているお金は、会社から貰っていると考えます。サラリーマンなら、毎月決まった日に黙っても給料が入ってきますからそう思うのが当然です。しかし、実際に私たちの生活を支えてくれているのはお客様なのです。お客様がお金を払ってくれるから生活は成り立っているのです。会社は支払いの代理人にすぎないと言えるでしょう。お客様がいなければ会社は成り立たず、失業してしまいます。つまり、サービス経済社会の最大の経営資産は「顧客」なのです。そのお客様が求める価値は均一ではなく多様化しています。そして、私たちが提供出来る価値を求める人が顧客です。

買い手が求めている価値を売り手が提供する。価値観を共有できる買い手が顧客です。お客様の喜ぶ事やサービスというのは、売り手に決定権はありません。物の価値観や良いか悪いか、高い安いは買い手が決めることであります。売り手の一方的な思いで、いい品だから、安いからきっと売れると思いがちであることが多くみられます。売り手と買い手とのミスマッチの原因は売り手側の顧客情報の不足から発生していることが多いようです。時間的な問題と多様化する課題、それを把握でき、様々な悩みを抱えながらも、いろいろな角度からお客様にサービスを提供出来る、攻めの商売を要求された時代、それは今の時代も同仕事のように思います。

ポールハリスは、その自伝「ロータリーへの私の道」の中で「ロータリーの会員は、その一人ひとりが自分の職業とロータリーの理想とを結ぶ環である」と書いています。ポールハリスは、この文中に於いて、職業奉仕について直接触れているわけではありませんが、第二奉仕部門を念頭に置いている事は間違いありません。なぜなら、ロータリーは職業分類の原則に基づく会員組織なので、ロータリアンと職業とを切り離して考える事が出来ないからです。

クラブ会員は、自己の職業の代表者となり、ロータリアン以外の人に対しては、ロータリーの精神を普

及する責務を負います。この二つの責務が職業奉仕の基盤となっています。ロータリアンは、職業奉仕の基本として、「他の人にもう少し優しくなり、力になってあげるために、日常の仕事の中で何が出来るだろうか」。いわゆる職業奉仕は、日々、この基本を実践しなくてはならないものだからです。そして、毎日の仕事に意味を与え、職場に尊敬の念を与える。これを目指していると言っています。

ロータリーは、R I 及びクラブ定款第4条所定の「目的」に定められた職業奉仕の推進を目的に、職業奉仕の更なる推進を図り、職業奉仕の理念の理解を深め職業奉仕の実践を極めていく事を目指し、クラブに研修を担当する委員会を設けて、高潔で品格、徳性を備え、地域社会で尊敬されるロータリアンを生み出すことから始まるロータリーの公共イメージと認知度の向上のため、実践的倫理活動を展開中であることは皆さんご承知の通りです。従って「奉仕の心」「奉仕の理念」を育て世の中に倫理を提唱していく使命を持った団体と考えます。ロータリー運動の実態を考える便法として、「入りて学び、出でて奉仕せよ」の考え方がとられています。例会の場で職業人の発想の交換を通じて分かち合いの精神による事業の持続性を学び、友情を深め、自己改善を図り、その結果として奉仕が育まれる。例会に於ける一連の活動の前提となるものが「親睦」そして、例会で学んだ事を実践するのが「奉仕」です。更に親睦をより効果的あらしめるものとして、例会への出席が重要で、例会の位置づけというものが大切であると思います。

シェルドンの奉仕の哲学は、体得する修練の場がロータリーの主とした活動の場であり、そこで培養された奉仕の心をもって職業生活の場で実践に移す事、自己研鑽しながら職業生活に適用する。この活動こそが職業奉仕であると述べています。今年度、ここに注目をしたいと考えております。奉仕の第2部門である職業奉仕の目的は、事業及び専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理念を生かして行く事と言われております。ロータリーが発足して間もなく、シェルドンが提唱した「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」というモットーの下、ロータリアン一人一人の責任として、各々ロータリアンが各自の職場で個人的な貢献が行なわれて参りました。シェルドンのロータリー活動は、1910年、「全米ロータリークラ

ブ連合会」の結成に伴い、この年の8月、シカゴでの年次大会で「他人にしてもらいたい事を、他人にせよ」「他人に奉仕すれば利益が得られる」との考え方を示し、更にシェルドンは、「商売に成功するには奉仕の理念に基づいて、継続的に利益をもたらす顧客を確保する事」であると言っています。

顧客満足と企業の社会的責任について、「社会に、地域に、顧客に、そして従業員に信用・信頼を得る事が、事業活動の継続発展を可能にする」という前提で、現在多くの企業が経営の根幹として活用している手法が「顧客満足」「顧客ロイヤルティ」です。顧客満足とは、顧客満足度とも呼ばれ、「人は物品を購入するとき、そのものに何らかの満足を感じた時に購入する」と言います。

アメリカでは、1980年代から言われ始めた概念で、従来は生産者主導であった商品の質・方向性等を顧客の要望や嗜好を中心に捉えた方が良いのではという考え方が背景にあり、生産性や効率を多少犠牲にしても、顧客満足度を高めた方が、消費者のリピーター化などを通じて結果的には良いと考えられるようになりました。顧客満足度が追及される商戦では、サービスを「戦略」の中心に置いた経営が必要に思われます。経営者からパートさんまで全員で”顧客の視点“でサービスを考え、顧客の抱える問題の解決に全神経を費やす全社的社内風土づくりが要求されます。顧客は常に自分は特別な存在でありたい。と思っています。その心理をサービスで喜んでいただけたなら、顧客は会社のコンサルタントとして役割を果たし、また、最も熱心で最も信頼のおけるスポークスマンとなるでしょう。これからは、”人々の役に立ちたいと思い、人々の役に立つ仕事を見つけ出さない限り、幸せにはなれない。“と思う事があります。

高い社員ロイヤルティが、顧客ロイヤルティを高める時代になりました。全ての業種が情報サービス業へ変化する今日、顧客との一対一の対面と対話が主体になっている現場では、第一線の人たちほど、社内で最も優秀な社員の配置が望まれ、感性が鋭く、気配りができ、知識と知恵を適度にミックス出来、話題の豊富な人、更に顧客一人一人を隅から隅まで知り尽くす、さり気ない観察力等、顧客情報を作成し情報に基づく対応をしっかりとやり続ける事が満足を超えたロイヤルティを獲得するために重要です。社員ロイヤルティの高さが顧客ロイヤルティの高さを生み、生き残りをかけての企業価値を高める図式

を構築せねばなりません。信頼を得る為に顧客のニーズに応える事も重要です。顧客の期待感より低いサービスなら顧客に不満が残ります。顧客の期待値と同じなら満足するでしょう。

ところで、世界中のロータリアンが職業奉仕をどのように定義しているかをご紹介してみたいと思います。

「職業奉仕とは生活の糧を得る方法を生きがいに変えるもの」

「職業奉仕とは職場で、そして生活の中で、ロータリーを生かしていく事」

「職業奉仕とは職業に誇りを持ち、正直かつ品位のある方法で職業を実践しようとするもの」

これらの定義から、職業奉仕には様々な取り組み方がありますが、基盤は「ロータリアンは職業を通じて社会に貢献しなくてはならない」という事になるでしょう。皆さんは如何お考えでしょうか。顧客に期待以上の「サービス」をする事で「感動」「喜び」を与える為には、顧客に当たり前の便益を提供するのではなく、それを超えて「ここまでしてもらえるのか!」「次は何をしてくれるのだろうか!」といった感動や新たな期待を抱かせる事が大切な要素となります。日本でも現場の判断で期待以上のサービスの提供できる仕組みが多く企業で実践されていると聞きます。

ロータリーの職業奉仕は、シェルドンによって100年前に出来上がった理念であり、今日の企業活動の根底の部分であることに違いありません。ロータリーの固有の奉仕の理念は、それを打開するためにも変えてはならないと考えます。ロータリーが他の奉仕団体と本質的に違う点は、職業奉仕の概念を持っている事です。職業奉仕の理念を捨て去って、ボランティア組織に移行する事の愚かさを自覚しなければなりません。私たちは学問的にロータリーの歴史観や知識を深める事、理論の深堀や、いたずらに難しいテーマを引出し、議論することを否定するものではありませんが、職業人としての人間性を高め、お互いに徳育を磨き合い、道徳心を習得する事が基本であり、職業の繁栄に結び付ける事、職業人としての誇りと自信を身に着けるところにロータリアンとしての本質を感じます。日本のロータリークラブをあくまで職業奉仕の団体として、守り育てて行く事も大切と考えますが、職業奉仕はあくまで、個人奉仕であるという原則は貫いていくべきだと思います。そして、職業奉仕とは、職業の倫理を営み倫理

的な商売を営むべし。というところであり、それを実践すれば自らの職業は栄えていくだろう。とロータリーは説くのであります。

正しい営業活動を行えば必ず会社は再建できると信じて「四つのテスト」を示し、会社の業績を改善させた、ハーバート・テーラーの話は有名です。ロータリー発祥の地アメリカでは、キリスト教、ユダヤ教などの信者が多く、彼らの宗教観に於けるテストとは、彼らが信じる神から課せられた課題で、自分に降りかぶる難問を一生のうちに解決する。と言った意味だと思っています。それは、ロータリーが入会した私達に課した課題であり、ロータリアン人生を送っている間「四つのテスト」を尊重し、経営問題や人間関係、様々な局面に遭遇した時、解決或いは解決へと導く道しるべであると解釈して良いのではないかと考えています。過去を振り返り、前とどこが変わったか、指折り数えていくつ挙げる事が出来るだろうか。良くも悪くも、どこかが変わってその結果に変化が生じます。変えなければ、変わらなければ、その結果に変化はないはずで。どんな小さな事でも良い方向に向かうよう、今までとは違った考え方、方向性を導いて参りたいと思います。その集積が好結果を生むことに期待をすると共に、残された任期の中で更に職業奉仕というものを勉強して参りたいと思っております。

成田空港南RC様の今後のご活躍を祈念申し上げ終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

ニコニコボックス

青柳誠君・名籙一郎君・越川忠君・齋藤逸朗君
向後雅生君・富一美君・古西弘和君・行木英夫君
伊藤元雄君・高田一行君・安藤卓造君・花澤昇一君
鈴木匡哉君

…土屋職業奉仕委員長ようこそ
地区職業奉仕委員長土屋利夫様より

本日計	26,000円
累計	469,050円

出席報告

例会日	会員数	出席	出席率に用いる数	%
11月27日	35	22	31	70.97

☆ 欠席をしたらメイクアップをしましょう ☆

平成26年11月14日(金)

3ロータリークラブ合同親睦ゴルフ大会

ムーンレイクゴルフクラブ

